

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(中学校用)

都道府県名	北海道
-------	-----

・学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	知内町立知内中学校						
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数	
学級数	2	2	2		6	15	
生徒数	58	44	74		176		

・研究の概要

1. 研究主題

生徒一人ひとりが、基礎・基本を身に付け、また、活かそうとすることのできる学習指導の在り方

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・第1～3学年 必修教科「数学」  
生徒の理解及び習熟の状況を見ると、それらの差が特に大きい教科であるため。
- ・第1～3学年 選択教科「数学」  
必修教科「数学」を補充するねらいで選択教科「数学」を開設することにより、理解習熟の程度に応じた課題学習や補充的・発展的学習が可能であると考えたため。

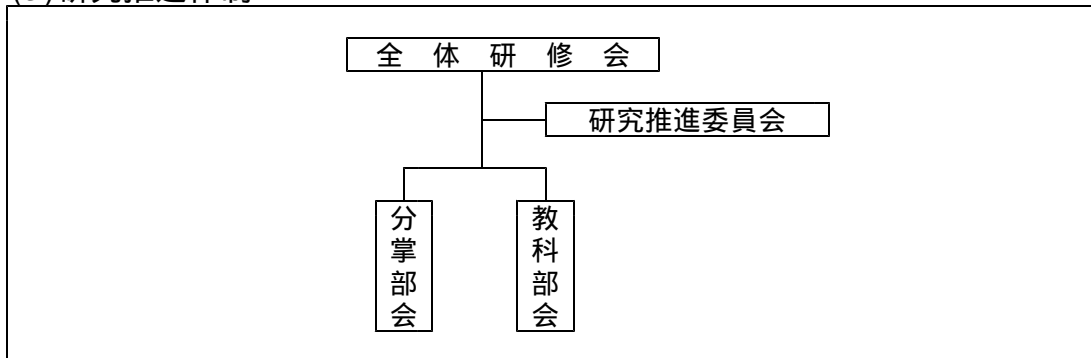
(2) 年次計画

平成14年度	<p><b>研究の重点</b> 基礎・基本の定着を図るための個に応じた指導 ～少人数指導を通して～</p> <p><b>研究の見通し</b> 生徒一人一人の学習の状況に応じた少人数指導及びTTによる授業を展開することにより、基礎・基本の確実な定着を図ることができると考えている。 また、きめ細かな指導を通して、生徒一人一人が、学ぶ楽しさを味わい、自己有能感が高まり、確かな学力が身に付くと考えている。</p> <p><b>研究内容・方法</b></p> <p>(a) 標準化された検査等による学力の状況の的確な把握</p> <p>(b) きめ細かな指導を目指したチームティーチングの実施 第2及び3学年数学において、教師3名によるTTを実施</p> <p>(c) 習熟の程度に応じたグループ編成と、少人数指導の実施 ・第2及び3学年数学において、各単元末(3時間)を3コースの習熟度に応じたグループに分け、少人数による学習指導を実施 ・第2及び3学年選択数学において、1年間を通じて、4コース(発展コース、習熟コース、定着コース、基礎基本コース)の習熟度に応じたグループに分け、少人数による学習指導を実施</p> <p>(d) 生徒の学力の評価を生かした指導の改善 ・習熟の程度に応じたコースの選択に当たっての指導の充実 ・習熟の程度に応じた学習内容の改善充実 ・習熟の程度に応じたコース間の移動等、指導方法の工夫</p>
--------	---

平成15年度	<p><b>研究の重点</b> 個に応じた指導のための教材の開発と指導方法や指導体制の改善充実</p> <p><b>研究の見通し</b> 生徒の実態を十分把握し、数学の目標及び内容を踏まえた学習の習熟の程度に応じた発展的な学習や補充的な学習の充実などの多様な学習教材の開発と、指導方法や指導体制を改善充実することによって、生徒一人一人に基礎・基本が確実に身に付き、活かそうとする資質と能力が育成できると考えている。</p> <p><b>研究内容・方法</b> (a) 個に応じた指導を充実するためのチームティーチングの在り方の改善と充実 (b) 学習の状況を的確に把握し、指導の改善に生かす評価活動の工夫 (c) 習熟の程度に応じた発展的な学習や補充的な学習等の多様な学習活動を行うための教材の開発</p>
--------	---

平成16年度	<p><b>研究の重点</b> 確かな学力の向上を図る指導と評価の改善充実と生徒の自己評価能力の育成</p> <p><b>研究の見通し</b> 生徒の自己評価能力を育成し、指導と評価を一体化することにより、生徒の自信と意欲（やる気）が喚起され、学習への向上心の育成と確かな学力の向上が図られると考えている。</p> <p><b>研究内容・方法</b> (a) 2年間の実績を踏まえた外部評価の検討と改善への指針の確立 (b) 確かな学力の向上を図るための指導と評価を一体化 (c) 相互評価、自己評価などを活用し、生徒の自己評価能力の定着を図る。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



## ・平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

#### 必修教科「数学」の充実

- ・ 第1学年数学においては、標準化された検査による学習状況の的確な把握などに努め、指導に生かすことができた。
- ・ 第1・2・3学年においては、教師2名によるTTを実施し、生徒一人一人のつまづきを把握し、きめ細かな指導を行うとともに、各単元内の3時間を課題別コースに分け、少人数による学習指導を展開した。
- ・ これらの取組によって、生徒の間にも「分かるようになる意識」が醸成され、授業などでの教師への質問が多く出されるようになったり、学習指導にかかわる教育相談などにおいて「数学が嫌い」と答えた生徒の数が昨年度よりさらに減少した。
- ・ 第1・2・3学年で、定期テストの他に「単元テスト」を実施し、その度に「単元評価」をして、学習の到達度を明確にした。
- ・ この取組によって、生徒が学習の到達度を短期的に把握でき、学習の目標を明確にもつことができた。

#### 選択教科「数学」の充実

- ・ 第1・2・3年選択数学において、通年で習熟の程度に応じた4コースの少人数による学習指導を展開することができた。
- ・ コースの選択に当たっては、10分間のコース選択問題を実施し、生徒自身にコースを決定させ、生徒に学習の状況を自己評価、診断する機会を与えた。
- ・ これらの取組によって、生徒は授業や学習に対する主体性を高め、学習中の教師による指導はもとより、生徒同士の教え合いや活発に交流し合う姿が多く見られ、学習の定着を深めるとともに、人間関係の醸成にもつながった。

#### 指導方法や指導体制などの充実

- ・ 生徒一人一人の学習の状況に応じた指導を充実するために、教科の取組の交流が活発になり、他教科等、学校全体の授業改善への意識が高まった。
- #### 地域への広報活動
- ・ 学校だよりや知内町教育委員会広報「学びの広場」などで、地域に対して学校の取組を紹介し、理解を得ることに努めた。

### 2. 今後の課題

- ・ 担当教員の評価会議の時間の設定
- ・ TTの授業の展開の工夫改善と、免許外教師の指導力の向上
- ・ 生徒が自分に合ったコースを適切に選択できるような自己評価能力の育成
- ・ 発展的な学習や補足的な学習で有能感や学ぶ楽しさを実感できる教材の開発
- ・ 家庭や町内の小学校など、地域への説明や研究実践を公開する機会の一層の充実

### ・学力把握のための学校の取組について

- ・ 1年生は入学後間もなく「全国標準診断的学力検査(NRT)」を実施  
(年1回)
- ・ 全学年について「観点別到達度学力検査(CRT)」を実施(年1回)

## ・フロンティアスクールとしての成果の普及について

### < 校内研究会 >

日時 平成15年11月21日(金) 11:40~12:30  
場所 知内町立知内中学校  
授業 1年必修教科「数学」公開(少人数指導)  
対象 町内各校の教職員、渡島教育局義務教育指導班(指導主事)  
函館市立深堀中学校長

### < 渡島管内研究実践交流会 >

日時 平成15年10月2日(木) 9:45~15:30  
場所 渡島合同庁舎  
目的 管内の幼・小・中学校における校内研究推進上の課題等の交流・情報交換や研究指定校の研究成果の発表を通して、各学校の研究及び教育活動の充実を図り、管内教育の充実に資する。  
対象 (1) 管内の幼稚園、小・中学校の校長(園長)、教頭、教諭及び養護教諭  
(2) 国・道、管内の研究指定を受けている幼・小・中学校の校長(園長)、教頭、教諭及び養護教諭

### < 10年経験者研修選択研修 >

日時 平成15年10月7日(火) 一日日程  
場所 知内町立知内中学校  
対象 渡島管内の小学校・高等学校の教員(異校種の先生)

### < 「中等教育資料」に掲載 >

発行号 12月号  
編集 文部科学省教育課程課  
発行 ぎょうせい  
内容 特集 理数教育の可能性を探る  
テーマ <実践研究> 習熟度別少人数指導に活かす問題解決的な学習  
対象 全国の教育関係者

### < フロンティアティーチャー研修会 >

日時 第1回:平成15年7月22日(火)  
第2回:平成15年11月14日(金)  
場所 第1回:上磯町立上磯小学校  
第2回:苫小牧市立緑陵中学校

### 研究成果の普及活動の成果

- ・管内では、フロンティアスクールの先駆者的立場で研究を推進している。他の指定校に先駆けての先行研究と押さえている。
- ・校内研の授業と研究協議では、今まで積み上げてきた実践を余すことなく披露し、研究が全職員のものとなっていること、そして、全職員の力量の向上に寄与していることを証明した。
- ・中等教育資料に掲載した実践は、他の関係者より高い評価を得た。

---

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 14年度からの継続校

【学校規模】 4～6学級

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導

【研究教科】 数学

その他(選択教科「数学」)

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有